

# 年報

社会福祉法人 日本ライトハウス  
理事長 橋本 照夫  
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中 2-4-37  
TEL 06-6961-5521 FAX 06-6968-2059  
<http://www.lighthouse.or.jp/>



## 平成30年度 事業報告 (2018年度)

### ◎概 括

当法人の名誉総裁であるヘレン・ケラー女史が亡くなられて50年という節目を迎え、併せて岩橋武夫が点字出版事業に着手して以来4年後には創業100周年を迎えます。

お二人は、第2次世界大戦をはさんだ激動の日々をともに過ごし、障害のある人を社会に包みこむ「インクルージョン」の実現を求めて、「身体障害者福祉法」の制定などに尽力してきました。

法人では11月23・24日の両日にわたり「ヘレン・ケラー女史没後50年を偲んで～ヘレン・ケラー女史と岩橋武夫」を開催し、パネルやビデオ映像の展示、劇団SE・TSU・NAによる朗読劇「Helen～ともしびをかかげて～」の公演、24日には記念式典を開催し、各界のご代表からヘレン・ケラー女史や岩橋武夫にまつわる逸話が披露され、元厚生労働事務次官の村木厚子氏による記念講演の後に、日本点字図書館理事長の田中徹二氏に岩橋武夫賞を贈呈しました。

2日間で延べ1,200人に上る方々の参加がありましたが、会場の都合で入場をお断りした方々がおられました。来場できなかった方々にお詫びするとともに、劇団SE・TSU・NAによる朗読劇を再公演するなどしてヘレン・ケラー女史や岩橋武夫を偲びたいと思います。激動の時代にあっても当たり前の人間像を追い求めてこられた先達に連なることの意味をかみしめたいものです。

視覚障害リハビリテーションセンターでは、平成24年度末に激変緩和措置が終了して以降、きらきらの財政改善が大きな課題となっており、施設入所支援利用者数の安定化がその鍵を握っていましたが、平成30年度は前年度に比べサービス等事業収入が減少したため、事務費の節減など支出減少に努めました。

### ◎法人事業の概要

#### —岩橋武夫賞の授与—

アジアにおける視覚障害者福祉・教育等の貢献者に授与される岩橋武夫賞の2018年受賞者は、点字図書の普及・国際協力事業に顕著な功績をあげられている日本点字図書館理事長の田中徹二氏に決定しました。

#### —ライトハウス文化祭開催—

11月3日(土)、恒例となっていたライトハウス祭りが、今年度は利用者と職員で行うライトハウス文化祭として開催しました。

#### —チャリティ事業—

第36回チャリティコンサートは、例年どおり大阪城東ロータリークラブの協賛により、6月17日(日)、ヴァイオリン:川島成道氏、指揮:澤和樹氏、演奏:千里フィルハーモニア・大阪と、指揮:和田眞季、演奏:大阪市立菟野中学校吹奏楽部により、ザ・シンフォニーホールにおいて開催、1,227名が来場されました。当日の会場募金およびチケット売上げによる収益は、盲導犬育成支援に充ちました。

#### —研修・交流・広報事業ほか—

- ・2月18日には、韓国・シロアム福祉会一行が訪日、施設等の見学と意見交換会により交流を深めました。
  - ・日本ライトハウス後援会「灯友会」(照屋貞夫会長代行)は、引き続き、バザールやクリスマスコンサートなどのイベント、募金箱の設置協力、年2回の街頭募金などにより、盲導犬育成にご支援くださっています。
  - ・新聞や放送・出版関係、大学の調査研究や博物館の特別展示、企業の社史編纂などにも法人が所蔵している文献や写真などの資料を提供しました。
  - ・引き続き、日本盲人福祉委員会、日本盲人社会福祉施設協議会等の関係団体の役員として法人職員が就任し、協力を行いました。
  - ・引き続き、小学校を中心に、幼稚園から高等学校までの要請に基づいて講師を派遣し、盲導犬啓発活動を行いました。また、企業や公共交通機関等の社員研修で手引きの方法等の実習を担当したほか、関係機関からの要請に応じ、ガイドヘルパー養成研修等に講師を派遣しました。
  - ・例年どおり、職員人権啓発研修会を2回実施したほか、職員全体会、役職者の業務研修等を行いました。
- 《募金事業に関しては、別冊の

『FORWARD』をご覧ください》

## ◎さまざまなサービスの展開

日本ライトハウス視覚障害リハビリテーションセンターでは、地震や台風、誤作動による出火警報鳴動などがあり、防災に対する意識醸成の必要を強く感じ、防災委員会を新たに立ち上げた。1月に、きらきらで虐待事案が発生。被虐待者やそのご家族に対して、他の利用者様への支援やご家族や関係者とのコミュニケーション等、大きく不足している現実が突き付けられた。

## ◎寄贈・助成等による機器整備

今年度も、ヴァイオリンの川島成道氏のご寄贈により訓練用機器を整備しました。寅井泰子様から100万円を受領し居室備品などを整備。イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりIH調理器やテプラを配備しました。

鶴見事業所では、台風の影響により、各所で破損被害があり、保険の適用で修繕を行った。わくわく職員の補充として、シルバー人材センターと契約。契約見直しを行い、産業廃棄物業者はジェイポートと契約。消防設備点検業者はヤマト消火設備と契約。館内トイレ清掃について一部を大阪ガスファシリティーズに業務委託し162万円を支出。経年劣化によりスプリンクラー呼水槽補修工事、トイレ排水工事、厨房関係フード工事を行った。いずれも、経常経費から支出に充てた。盲導犬訓練所では、チャリティカレンダーの販売が好調で、計7,000部を完売、追加で1,500部を増刷した。

### 1. 日本ライトハウスきらきら

サービスの内訳は、生活介護(定員15名:利用率90.3%)、自立訓練(機能訓練)(定員19名:利用率72.2%)、就労移行支援(定員6名:利用率33.9%)、施設入所支援(定員30名:利用率79.7%)で、進路の内訳は、復職・就職5名、支援学校等進学9名、わくわく利用9名、家庭

復帰6名でした。

就労移行支援・自立訓練を修了した利用者のうち一般就労・復職された方を対象に、10月より就労定着支援事業を開始しました。

### 2. 日本ライトハウスわくわく

引き続き、障害者総合支援法に基づく事業所として、創作活動・生産活動・技術訓練(歩行・点字ほか)、スポーツ、特別プログラム(外出行事)などのさまざまなサービスを提供しました。年間の実利用者数は124名。年間平均利用者数は40.1名、稼働率は97.5%となりました。

JR放出駅と施設間の送迎サービスを引き続き行いました。

### 3. 職業訓練部

21名の在籍者に職業訓練プログラムを提供し、13名が修了・中退(就職7名、求職中5名、支援学校進学1名)、8名が継続しました。引き続き、就職した修了者の体験を聞く会を開催したほか、就労移行支援利用者の支援、大阪市短期委託訓練等も実施しました。

### 4. 盲導犬訓練部

パピーウォーカー宅へ62頭の飼育委託を行いました。アジア各国の盲導犬協会との間で繁殖に関する協力を進めているほか、訓練士の訓練技術のレベルアップに取組みました。(盲導犬貸与22名20頭)

### 5. 盲人ホーム(理療実技指導部門)

引き続き理療免許を所持する利用者の技術向上と総合的な資質向上に力を入れて取り組んでいます。(利用者8名、継続5名)

### 6. 居宅支援センターてくてく

障害者総合支援法の「居宅介護・重度訪問介護」、「移動支援」、「同行援護」、「一般相談支援」、「特定相談支援」の各事業(利用者数月平均70.5名)、介護保険法の「居宅介護支援」、「訪問介護・介護予防訪問介護」の各事業(利用者数延べ89

名)を実施した。登録ヘルパー:48名。

### 7. 養成部(指導者養成部門)

○厚生労働省委託 第48期視覚障害生活訓練等指導者養成課程

1年基礎Ⅰ 12名、1年基礎Ⅱ 4名

2年実習 3名、2年応用 2名

○日本眼科医会共催

医療関係者視障リハ研修会 12名

○文部科学省・全国盲学校長会後援

教育関係者視障リハ研修会 4名

○日本盲人社会福祉施設協議会后援

視障リハ基礎講習会(2回) 40名

○厚生労働省

視覚障害生活訓練等指導者養成課程

フォローアップ研修会 22名

○訪問指導:奈良県:127回、和歌山県:

204回、宝塚市:111回、兵庫県:65回

### 8. 障がい者基幹相談支援センター・相談室

昨年度大阪市では、より機能を強化し、事業名称も「〇〇区障がい者基幹相談支援センター」へと改称した。鶴見区障がい者基幹相談支援センター(以下区センター)は、地域福祉の中核的相談機関として、個人や世帯の支援はもとより、地域づくりにおいて一層重要な役割を担うこととなった。電話相談:174件、来所相談:51件、相談支援センター受付:176件。

### 9. その他事業

・修了された方々に『ライトハウス通信』を1回発行しました。

・広報誌『ぴっかぴか』を3回発行しました。

・ボランティア登録数は145名。活動にご協力いただいたほか、企業ボランティアの方々からもご奉仕いただきました。感謝申しあげます。『ボランティアだより』を2回発行しました。

・学校や国内外の関係機関等からの依頼により、引き続き研修生・実習生を多数受け入れたほか、講習会等に職員を講師として派遣しました。

◎情報共有社会の実現をめざして

今年度は、「マラケシュ条約」の発効と「改正著作権法」の施行により、日本の視覚障害者等の情報提供事業において、歴史的な躍進の年となった。西・東・早川点字図書室の3事業所が連携・協力し、全国の視覚に障害のある方や読書に困難のある方などの必要と希望に応え、“学び、働き、暮らし、楽しむ”ことに役立つさまざまな情報を多様な媒体で製作・提供しました。

西事業所は、「情報共有社会」の実現を牽引するとともに、東事業所と連携し、全国唯一の点字児童雑誌『アミ・ドゥ・ブライユ』を発行し、点字による読書ニーズの拡大を進める一方、音訳技術と電子書籍を統合した「HyMe(ハイミー)」の普及にも取り組んだ。東事業所では、高い質を求められる公的な点字資料の受託製作を安定的に行った。地域の視覚障害者に対し、サービスフロアを中心に、情報通信機器と視覚補助具の利用支援を進め、大阪府内の眼科医と視覚障害関係施設・団体を結ぶ「大阪あいねっと」をはじめ、神戸アイセンターなどとの連携・協力により、激増する高齢のロービジョン者や中途視覚障害者への支援を推進した。早川福祉会館点字図書室では、市内各区の福祉窓口等を訪問して啓発活動を行った。

1. 点字・録音図書の製作・受入

(単位:タイトル数)

種別	点字図書	録音図書
製作図書	276	327
委託配布図書	38	35
寄託・その他	33	14
購入図書	9	1
蔵書累計	10,181	18,300
(冊/巻数)	37,034	35,233

2. 図書館サービスの利用状況

(1) 図書館利用者数

大阪市: 1,985名 大阪府: 1,777名  
他府県: 1,252名 合計: 5,014名

(2) サービス利用の状況

〔貸出サービス〕 点字図書 10,036冊、  
テープ図書 4,495巻(図書 4,183、雑誌 312)、  
デイジー図書 94,826枚(図書 51,748、雑誌 43,078)  
〔対面リーディング〕 788件 1,574時間  
〔プライベート製作〕 点字 159件、音声 57件、  
テキストデータ 16件

3. 機器・用具サービス

用具・機器展示・販売、パソコン指導などを行ったほか、訪問利用支援サービスも実施しました。サービスフロア来室:5,399名、  
問合せ:3,631件、訪問支援:6件、個人講習:609件。

4. ネットワーク利用支援サービス

視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」のサービスを引き続き受託し、全国の個人会員や施設会員に対して、インターネットによる図書情報等の利用の普及に努めました。年度末登録数:個人会員16,942名、  
施設会員382団体。

5. 多部数複製点字製作提供事業

(1) 支援学校等向け点字教科用図書製作

視覚障害児童・生徒・学生向けの教材の点字データを製作し、小学部21点45巻、  
中学部9点41巻、高等部普通科24点171巻、  
UEB関連図書3点9巻、理療科19点76巻の教科用図書を点字・拡大・デイジー版で発行しました。

(2) 厚生労働省委託図書貸出配布事業

点字製版 20タイトル・2,920冊、CD製作 7  
タイトル・511枚の製作貸出を行った。デイジー  
26タイトル、マルチメディアデイジー 8タイトルを製作、  
貸出を行った。

(3) メディア製作センター事業

国立国会図書館による「学術文献録音図書製作作業」を引き続き受託したほか、文字の認識や理解に困難がある学習障害の方、印刷物の読書に困難のある方々への情報提供に取り組み、教科書や書籍を製作しました。さらに、HyMe(ハイブリッドメディア)事業、テレビや映画、演劇などに音声解説を普及・拡大する事業を展開しました。

(4) 各種委託製作他

大阪市・和歌山市等、自治体発行の点字版広報誌の製作を受託しました。また、行政・教育機関等からの依頼による点字印刷・点訳物・点字サイン(プレート類)等を製作・配布しました。

(5) 教材等個別製作

教育委員会や学校の依頼に応えた教材や試験の点訳・墨字訳を受託しました。小学校:6校42件、中学校:3校29件、大学:5校160件、自治体等:21団体71件。

6. 国際協力事業

ダスキン愛の輪基金のアジア太平洋障害者リーダー育成事業に協力し、ブータンの視覚障害青年1名の研修を行いました。

7. ボランティア・広報事業ほか

西事業所登録ボランティア:540名。

点訳等の講習会を開催したほか、各種講習会等にも講師を派遣しました。

毎月の施設見学会等で33名の方、グループ・団体の個別見学では、37団体、241名の方に施設をご案内しました。

8. 各種情報の提供

視覚障害者情報誌『読書』を年11回、ボランティア向け情報誌『ONE BOOK ONE LIFE』を年11回、専門情報誌『対面リーディング通信』を年6回、『ろくおん通信』を年6回、『点訳通信』を年4回、それぞれ発行しました。

9. 早川福祉会館点字図書室

利用登録数:941名 ボランティア登録数:365名(音訳179名、点訳186名)

(1) 製作・貸出実績(単位:タイトル数)

種別	製作	貸出
デイジー図書	101	49,640
テープ図書	95	2,779
点字図書	125	2,247
その他	-	2,033

(2) その他サービス実績

プライベートサービス 547件  
対面読書サービス 242件